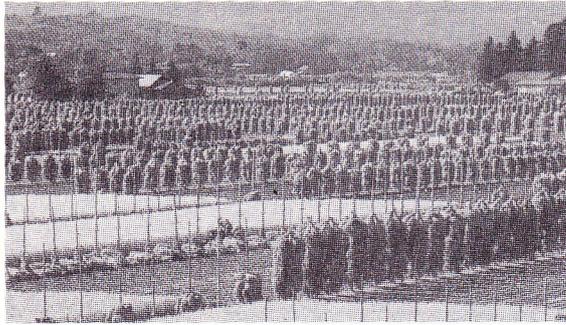


全国初の合同同窓会開催へ

—第1回古川市内高校 関東同窓会新年の集い開催—



典型的な大崎耕土秋の風景

在京古高同窓会では平成2年から平成5年まで毎年新年会を開催し、ようやく定着してまいったところですが、本年の1月22日に開催予定の新年会は、初の試みとして、在京古高同窓会単独開催ではなく、古川女子高、古川工業高、古川商業高の4校合同で、新年会を開催する運びとなりました。

平成4年の在京古高同窓会の総会から古川市内の女子高、工業・商業高の同窓会役員の間で、

「大々的にやる同窓会の集まりは1年に1回の総会だけでいいじゃないか」という意見が根強くありまして、昨年来の役員会の席上でも度々議題が上がっておりまして。とりあえず、平成6年は開催するという役員会の決定でしたが、新年会もマンネリ感の感あつて、このへんで何か違った形や方向での新年会を考えていたということもあり、「とにかく、前向きにやってみよう」との結論に達しました。

合同で新年会を開催することに関しては、様々な問題が山積してあり、難しいことも事実ですが、7面の記事にもある通り郷土でも「第1回宮城県高文連大崎地区高等学校総合文化祭」と称して14校が合同で文化祭を開催しております。初の試みなので、戸惑いもあるうかと存じますが、今までと同様ご参加下さるようお願いいたします。

在京古高同窓会会員の皆さん、新年明けましておめでとうございませう。平成四年二月十五日の新年会では、岩出山支部長としてお招きいただき、ご挨拶をさせていただきました。また、皆様と親しく懇談出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

平成五年八月に開かれた同窓会総会におきまして、皆様からご推薦をいただき故米城一善会長の後を受けました母校の同窓会長に就任いたしました。同窓会長に就任して以来数カ月経ちましたが、名門古川高等学校の同窓会長という責任の重さを痛感しています。

最初の仕事として、早速九月に同窓会の財産である三本木町の桑折地区にある山林(一一、八七七ヘクタール)の確認・視察に、渋谷候夫校長先生をはじめ関係職員の方々と出かけてまいりました。この山林は、平成二年六月二十四日に貰い火によって火災の被害を受けたところで、燃えた翌年に植え

たひばや杉の木は、現在、一メートル五十センチくらいまで成長しており、順調に成育しているのを確認してまいりました。この山林の管理を依頼している三本木町桑折高田地区の舘田軾氏(八十二才)にもお会いして、お話をうかがってまいりました。戦後、燃料不足の続いた時代には、学校から大勢の生徒さん方が下刈りに来て、薪にして教室の暖房の足しにしていましたが、時代も様変わりしてしまい、今は下刈りをする人も少なくなつたそうで、森林組合でも労力不足に悩んでいるとのこと

▼九月二十七日 同窓会正副会長会議
▼十月十四日 記念事業協賛会拡大常任委員会を開催して、前記建設委員会と建設推進委員会の人選について検討を重ね、これらを決定。ようやく百周年の記念事業にむかふのスタートをきったところです。

協賛会会長中川俊一古川市長、顧問の伊藤宗一郎国會議員、佐藤常之助県議會議員をはじめ役員の皆様からも激励の言葉をいただいで居りますことは大変有難いことと存じます。渋谷校長先生をはじめ事務局長の横山寛勝先生も日夜心をくだいて下さっておりますので、これらの皆様に励まされ、また、ご尽力、ご協力をいただきながら、百周年に向けて、同窓会の仕事を進めて参りたい所存です。

在京古高同窓会の皆様にも、今後共なお一層のご指導とご協力のほどよろしくお願いを申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



野村喜太郎同窓会長

同窓会会長に就任して 野村喜太郎



在京古高同窓会 会報 第11号

〒133 東京都江戸川区
北小岩6-10-1
在京古高同窓会事務局
3672-7015
FAX 3672-1147
印刷：(株)ケーヨー

会費納入のお願い

今回は、年会費未納の方だけに振替用紙が同封してあります。より活発な同窓会運営のため、納入下さるようお願い致します。既に納入した場合には行き違いですので、悪しからずご容赦下さい。

合同新年会のお知らせ

平成六年の新年会は、今回試験的に古川女子高、古川工業高、古川商業高と四校合同で、左記の要領で開催いたします。

皆さんのご出席を心からお待ちいたします。

▼日時 平成六年一月二十日(土曜日)
午後二時～五時三十分(予定)

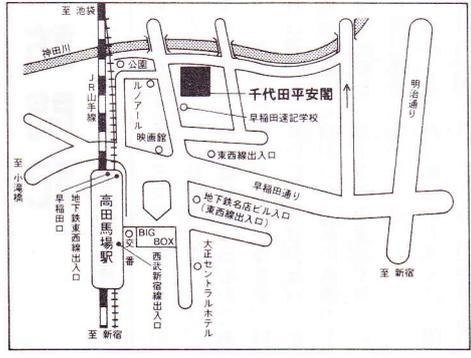
▼場所 高田馬場「千代田平安閣」
新宿区高田馬場二一六―十
電話三〇七―五六一
(JR山手線または営団地下鉄東西線、高田馬場駅下車、徒歩二分)

▼会費 七、〇〇〇円

▼講演 昭和三十一年卒 米城清司さん
(大崎タイムス社社長)

▼演題 「大崎の現況と未来その二」

▼企画 「獅子舞」(古川商)その他



思い出想う

「少年の日に還って」

昭和31年卒 浅野 平男

3.5 在京古高「三一会」・古女高の合同同級会に出席して



在京古高の同級会に出席するようになったから、早3年が経つ。おかげさまで懐かしい恩師や同級生の何人かとは再会を果たし、旧交を暖め続けてきた。

私もサラリーマンゆえ、会社の勤務の関係で、3年ごと位で全国を転々としていたが、公私ともに少しゆとりが出来たところに、同級生の尾崎章君から在京古高の同級会である「三一会」への出席を熱心に勧誘され、初めて参加したのが三年前である。

初めて出席したときは、同級生の皆さんの顔と名前が一致せずに高校時代の話題になっても話がかみ合わないことが多かった(高校時代はおとなしかったので...)。しかし、話し込んでいくうちに、昔の童顔が浮かんできて高校時代の気分に戻ることができ、昔の話や近況などを話し合うようになって、楽しい気兼ねのない一時を過ごすことが出来るようになってきた。このようなときに、幹事連のイキナ計画で古女高と「在京古高三一会」との合同同級会が初めて開催されることになったのである。

新宿は高田馬場の「平安閣」で開催される平成5年度の古高と古女高との合同同級会の会場に向かいながら、同級生、特に、約40年ぶりに逢うであろう同じ色麻中学出身で、古女高に進学した彼女たちの顔を思い出していた。しかし、誰が出席するのか想像もつかなかった。

会場の高田馬場「千代田平安閣」に到着してみると、すでに懐かしい顔が勢揃い。一年振りの近況を報告し合っていた。また、初参加の友や遠方から駆けつけた友もあって、会場は早くも盛り上がりつつあった。しかし、古女高の同級生の顔を見渡しても皆知らない顔である。中学が一緒の女子高の同級生で誰が参加しているかと楽しみに会場を見渡したが、思い当たる顔が見当たらなかった。

そんな時に中学・高校と一緒だったM君が呼びに来た。行って見るとF嬢(色麻中学の同級生・今は奥様)で、会った瞬間に、おさげ髪の彼女の姿が鮮明に蘇った。中学時代の彼女は、優等生で全般的に注目を浴びていた人であったので、中学時代の話題には事欠かず、次々と話が弾んでいき、いつの間にか同級会も終りに近づいていた。本当に約40年間の空白が一瞬にして埋まった感じであった。

それでも40年の間にはさまざまに人生を歩んできたことを痛感した一日でもあった。我々の人生も50年の後半に入りつつある頃になって、ようやく若干の精神的・時間的な余裕が出てきたのではないだろうか。

したがって、時には少年時代に還って懐古談に花を咲かせるのも楽しいのではないだろうかと思う。次回には、もっと多くの同級生(特に、女子校の面々。)が参加されることを願うこと切である。

この様な機会を設けてくれた幹事諸氏のご苦勞に感謝しつつ、50代も後半に入った同級生諸兄のご健康とご多幸を祈り、同級会の益々の盛会を願って高田馬場を後にした。

ブータン王国訪問記

昭和37年 千坂 孝夫(日本体育協会)

昨年の12月13日から10日間の日程で、ブータン王国を訪問した。

外国人の入国を厳しく制限している故、実距離以上に遠い国であるが、彼らの顔立ちには日本人そっくりであり、国王を含め国民すべての男性は、ゴートという着物を着ている。信仰はチベット仏教であり、至るところで経文旗がはためいている。

庭先での薪割り、輪回し、ゴムとびで遊んでいる子どもたち。子守、水汲み、日向での手作業等。私の子供時代にあった田舎の景色が生きており、とても懐かしい香りのする穏やかな国であった。

国としての開国は20年前のことであり、オリンピックはロス、アジア大会はソウルよりの参加である。

学生時代のWV部以来、山歩きと民俗に触れることを生涯の趣味としているが、既にWV運動発祥の地ドイツをはじめ、アルプスもネパールヒマラヤも歩いているが、ブータンは長い間憧れの地として残っていた。旅行社の企画するツアーに加わっての実現は毛頭考えなかった。植村心酔派である。

幸い90年よりブータンオリンピック関係者と東京、札幌、北京と接触を持つこととなった。顔触れは異なっても全員親しみの持てる人々であった。

そして、一昨年10月、JASAセミナーにブータン代表で参加されたヨントン・タルチェン氏(29才、テッコンドー・ナショナルコーチ)との運命の出会いとなった。タルチェン氏と打合せをし、12月17日のナショナルデー祭典を中心に、バンコク経由でパロ空港に入るという案を作成した。通常、招

聘許可が出るまで三ヶ月を要するとのこと、運を天に任せていた。いざ、実現可能となると臆病になるものである。どちらに転んでもというまま、11月は過ぎた。互いに信用取引というか電話連絡もしなかった。私の英語力不足とテレホンカードでの通話不可という電話事情もあった。

12月7日(月)体協のFAXに入国許可の文書が流れてきた。出国は土曜。勝負は5日間。火曜、東京・バンコク航空券手配。水曜、かくし玉の財形貯蓄を一部解約し、〇〇万円準備する。旅行社手配不可のバンコク・パロ便を、バンコクへの国際電話で予約する。

木曜、休暇願。温情に感謝。日曜、憧れの地の空は青かった。チベット寺院巡り、ドチュラ峠や皇太子が浩宮時代に登ったタンゴ・ツェリよりの白い峰々、日本製のボンコツ車もよく頑張ったが、わが半纏姿も健脚であった。

そして、17日の祭典、高校生の演ずる踊りながらの掛け合い歌は、万葉人を思い起こさせるに十分であった。時はゆったりと流れていた。

しかし、旅にハプニングはつきものである。I機だけの飛行機が予定通りには飛んでくれなかったのである。やはり、遙かな国であった。

次期BOA事務総長タルチェン氏より依頼を受けたブータン国旗2枚とフトテニスボールをお礼として送った。広島には、アーチェリーとテッコンドーの参加を希望していたが、先立つものは金のようなのである。アジア大会でのメダルもいつのことであろうか。

戦後の古高柔道部復興を果たして

昭和27年卒 春田 紘輔

かつて古中（旧制）柔道部は、県下の名門であり、特に昭和18年卒の先輩は、古中初めての県大会優勝の偉業に輝いた。ところが、敗戦によって武道が禁止されたため、私たちが古中に入学したときに柔道部はなかった。

しかし、私の場合、父親が明治後期の北大柔道部出身の五段で、ひそかに柔道にあこがれていた。また、慶大出身の六段であった佐々木一郎さんのお父さんが愛読されていた「姿三四郎」を借りて読んでいたことで、益々柔道熱に火がつき、当時唯一稽古のできた古川警察署の武徳殿に嘆願し、古高一年生のときにお許しが出た。この時の嬉しさや感激は大変なものでした。当時の古川警察署には、町の顔役も一目おく佐々木四段がいて、非常に幸運なスタートでした。この頃は、学校に内緒だったので誰も知らないことでした。

そのうち武徳殿が老朽化で解体され私たちが稽古場のない仲間同志で色々と探しているうちに、古川映画館の三浦恭二さんが弘前高校、東北大と柔道選手だったことを聞き出し、三浦さんに頼み込み、映画館裏の土蔵に畳を運び込んでやっと稽古場を確保することができた。このとき古高生は私と兄の二人だけで、他は中学の先生や農家の人達と様々でした。毎夜裸電球の下で打ち込みや乱取りに汗を流すことの満足感で一杯でした。

その後このまま閉鎖になり、今度は電産（東北電力）に柔道の強い人がいるということでお願いをした。ここでも倉庫を改造して道場を作ってもらいました。この頃になって、ようやく2年先輩の名雪（後に東北大将）さんと

遠藤惇さんが参加、続いて超大物の斉藤良治先生の登場となったのです。

しかし、不運は続くもので、ここも間もなく閉鎖になってしまい、いよいよ駄目かと思ったときに、時々指導にいられていた家喜六段（家喜整骨院）が「どうだ俺の家の庭でやらんかね」と云われました。ご承知のとおり家喜整骨院は、古川駅から古高への通学路にあります。背に腹は変えられず「よしやっべ」ということになり早速庭の調達から始まりました。

この話でたちまち勇名をはせ、同級生からは佐々木四郎君（故人）が参加して来ました。悲壮感と得意な気持ちが入り組んで、放課後学校から露天道場へ向かう途中は血が踊りました。当時を振り返ると今でも体がはすむ思いがします。

そんな変遷を経て、高校二年の秋頃学校柔道が解禁になると情報が流れてきました。しかし、周りは大学受験も



草創期の柔道部員

迫っており複雑な気持ちでしたが、昭和26年4月から許可が下りることになりました。非公式な時代からすでに二年間も打ち込んだ道であり、私は迷うことなく柔道部の設立に動いた。

当時の古高は、スポーツ全盛時代でほとんどが優勝を狙える種目ばかりでした。そこに割り込んで少ない予算を分獲るのは大変なことでしたが、満場一致で柔道部設立の賛同を得たときは最高の感激でした。このときの仲間には、佐々木四郎（故人）、中川晃（故人）、野田真治、八巻和男、山田英世、菅原峯雄の諸兄が居られました。

三年生にして初めて結成した柔道部を率い、初参加の県大会では、個人、団体ともに3位の成績で、斉藤先生をはじめ、部の設立に尽力下さった方々には何とか顔が立ちました。

このあとの私の人生は、柔道と共にという感じで、東北学院で主将を務め国鉄に入ってからも選手は勿論、全国鉄チームの監督としても全国大会に出場しました。還暦を迎えた今日でも時々道場に顔を出し稽古しています。

ただ一寸残念なのは、今の古高柔道に昔日の情なく、参加するだけのチームと聞くに及び、苦勞して設立しただけに、誰よりも古高柔道部の復活を望んでおります。今後の生徒の皆さんに期待します。

在京古高同窓会の活動が活発になるにつれ、東京及び関東圏にも数多くの柔道部OBが居るということがわかり、三年前に在京古高柔道部OB会を設立しました。私が会長ということで同級生から野田、菅原、八巻の三氏が常連で、毎年総会も開き毎回15〜16名が出席します。会員数も40名程おります。目的は、当然古高柔道部の後援でありますが、自慢話と酒の味もまた大きな魅力であります。

懐かしい故郷の方言一冊に

昭和34年卒 堀 宜男

「懐かしい故郷の方言一冊に」これが、われわれ大貫弁研究会が自費出版した郷土の方言集「大貫のことば」が河北新報で紹介された時の見出しである。

本が完成したのは平成五年三月。ちょっとしたきっかけから同郷出身者四名と共に大貫弁研究会なるものを結成し、大貫のことばを集め出してから丁度二年目の事である。しかし、初めから本にして出版しようと考えていた訳ではない。

テレビやラジオによる標準語の普及で、懐かしい故郷のことばが消えつつある一方、自分たちのことばを大事にしようという運動が各地に起こっていることを耳にし、我々も出来るだけ多く大貫のことばを集め、何らかの形で記憶に残そうと大貫弁研究会を作ったが、初めはお互いが収集したことばを持ち寄るだけだった。しかし、数度の集まりの後、集めたことばは相当な量になっていたので、何とか本にして出版しようという一決した。

本にするには言葉だけでは単調なので、歴史、遊び、ことわざ、昔話など大貫に関連したことばは何でも収集し、研究する事にした。そして、研究会が出来てから脱稿まで一年と九カ月を要した。ことばについては全員が素人で本の編集などやったこともなかったが何とか印刷と製本以外は殆ど自分達でやった。出版費用も全員で均等に分担した。ここまでやれたのは、個性あるメンバーの努力とチームワークによるものと思っ



「大貫のことば」表紙

ている。本の完成後、河北新報と大崎タイムス、それにたまたま知人がいた日

本経済新聞社に本を送ったところ、記事にして貰った。新聞の影響力はさすがで、それからは非分けて欲しいという希望が殺到し、希望者には郵送料分の切手代だけで分けたこともあり、初版の六百部は、「またたく間に」という感じでなくなってしまう。これで本の出来栄に多少の自信を得、また、出来るだけ多くの人に読んでもらいたいと考え、細やかなボランティアのつもりでこの程増刷に踏み切った。そして読売新聞社に勤めていた、古高の先輩中澤令是さんに頼んで、読売新聞のプレゼントコーナーに掲載して貰った。先着百名に差上げる事にしたのだが、三百人以上の人から申込みがあり、嬉しい悲鳴をあげている。因みにメンバーの一人は古高の一年後輩の稲葉光豪さんである。なお若干予備があるので、希望があれば諸兄にも進呈したいと考えている。

お問い合わせ先
〒214 川崎市多摩区菅仙谷
三十一一十二四〇二

堀 宜男 様
電話 〇四四一九四四七一九

同期会・同期会・同期会

「還暦を祝い、全国から松島に集う」

―古川高校四回卒生還暦祝賀会を催す―

昭和27年卒 種村 雄一



種村雄一さん

還暦祝賀会

さる九月十八日、名所松島の「ホテル一の坊」に三名の恩師をお招きして全国各地から八十名が集まり、楽しい一夕を共にした。

東京勢も大挙二十六名がはせ参じて応援歌、鏡割り、そして入り乱れての談笑風景と。大いなる盛り上がりを見せた。その熱気たるやどう見ても血気盛んな若者たちの集まりとしかハタ目には映らなかつたであろう。

この夜ばかりは、体力・気力ともに古高の在学時代に還つたような会であった。

祝宴が終わると、一部の部屋に集まり、夜の更けるのも忘れて昔の話に花を咲かせていた。



古川高校第四回生 還暦祝賀会

還暦祝賀会

齢60...気力はまだ古高生
60才...いやこれからが人生だ
60才とは思えぬ若者の勢揃い



祈禱を終えて心も晴れやか...塩釜神社

この記念文集「螢雪燦燦」を母校へ三十部ほど寄贈し、渋谷候夫校長からは、「先輩の生き方を知るの大切な事。各クラスにある文庫にぜひ入れたい」と嬉しい言葉をいただいている。

還暦の祈禱

祝賀会の前に祈禱を希望した者のみ三十一名程が塩釜神社を訪れて、無事還暦を迎えた謝意をこめて祈禱をささげるとともに厳肅にお祓を受けた。

記念文集「螢雪燦燦」の発刊



戦後の学区制改革で、通算六年間の汽車通学―四年間は下級生のいない生活を送った我々古高四回生が、六十才を迎えるにあたり、在学当時の思い出をぜひ残しておこうと、今春から本格的な編集作業にかり、八月に出来上がった。恩師の回顧録や運動部・文化部の活躍状況などを卒業生二十五人が当時を懐かしく振り返りペンを走らせたもの。

諸官公庁 指定塗装工事業者

神奈川県知事許可(般-62)3987号 マスチック施工協会会員
(社)日本塗装工業会会員 塗装工事一式請負

株式会社

ツナグ美装社

代表取締役 角田 耕一 (昭和44年卒)

川崎市川崎区渡田2丁目11番4号 電話 044(333)4712番(代)
FAX 044(355)8145番

宮城は只今3F「不況」「不作」「不正」
困ったものです 政治は足の引張りあい
誰が国の将来考える 面白くないね

積水工業株式会社

代表取締役 金子 康

東京都目黒区上目黒2-17-1

TEL. (3793)5711(代)~6

有限会社

丸栄室内

〒115 東京都北区神谷1-3-2 神谷堀公園ハイツ201

鈴木和夫(昭和31年卒)

TEL. 03-3912-7013
FAX. 03-3912-7042

経営コンサルタント・社会保険労務士

青沼事務所

相模原市麻溝台2-6-30

青沼行雄(昭和34年卒)

電話 0427-44-0770
FAX 0427-49-7230

古高昭和四十一年卒同期会

浅野 仁也

昨年の三月二十七日に、鳴子温泉の弁天閣(同級生の菊地武信氏経営)において三十数名が集まり同期会を開催いたしました。在京からも七、八名程参加しました。

この同期会は、長年母校の数学教諭として、私どもの在学中から勤続なさっていた高橋秀夫先生がめでたく還暦を迎え、三月に定年ということで、愛弟子の佐々木力君(東京大学教授)の呼び掛けで集まったものです。

つまり、四半世紀ぶりの同期会と、古高一途に大崎地方の少年たちの数学教育に生涯を捧げた高橋秀夫先生の還暦定年のお祝いかねて集まったものです。

しばしかつての少年時代に思いを馳せ、楽しい一日でした。これを機に在京のメンバーでも集まりたいと思っています。



高橋秀夫先生ご夫妻を囲んで

古高昭和三十六年卒同期会

佐藤 文彦

平成五年度の(在京古高同窓会・昭和三十六年卒同期会)は、十月十六日の土曜日。小雨がそぼ降るにもかかわらず、食意地の張った連中が大勢参加して、『南国酒家・原宿店』で開催されました。

参加者年齢合計千二百二十四歳(五十一歳×二十四人)の大盛況で、現、古高音楽教諭の同期生大橋君も、わざわざ古川から駆けつけてくれて母校の発展ぶりを報告。

乾杯は、一番遠方から参加したヤロッコというのが恒例ですので、今回、中央信託銀行のニューヨーク支店長として単身赴任中であるが、たまたま、出張帰りの最中であつた藤本君が音頭を取りました。

世情を反映してか、会社の売上げを狙って製品PRをするヤツ、教育費や家のローンで音を上げているヤツ、体力・頭髪?の衰えを気にしているヤツなどなど。

それぞれが現況を報告しあい、三年の空白を埋めるに十分のひとつきでした。

中華料理を腹一杯たいらげ、老酒を死ぬほど飲んだ後、二次会へ二十二人も参加し、またまた、ウイスキーのボトル十数本を前に並べ、ピアノ伴奏で応援歌を次から次に歌い、しばしの間十八歳に戻った未成年飲酒の狼藉でありました。

再会を誓った頃には酔顔朦朧の中年に逆戻り、めでたくお開き。では来年も、もっとたくさん集まんべや。んだんだ。

第十回(昭和三十三年)卒忘年会

鈴木 節男

古高十回卒生の忘年会は、十二月四日の土曜日。午後五時から品川御殿山の「海宴」にて大々的に開催。

出席者は、恵比寿隆夫(間組)、大友正行(ビコー印刷)、佐藤厚(東邦物産)、鈴木邦夫(上智大学)、鈴木節夫(住友ベークライト)、橋誠(日本電気)、鈴木三郎助(日本能率進歩研究会)、寺沢壮一郎(職場活性化研修センター)、野村高義(日立印刷)、早坂英郎(川島織物)、結城睦夫(トキン)、福原喬夫(日産自動車)、小熊一彦(日本航空)、大山隆志(第一勧銀)、鈴木節夫(エコー)の面々。

十回卒生は、今や社会の中堅として若々しく各方面で大活躍中で、会の話題も人生哲学、政治、経済の固いものから、柔らかないものまでこなすオールラウンドプレイヤー揃いで、毎回、どんな話題が飛出すのか、楽しみに来るやつもいる。

古高昭和三十四年卒在京有志会

穴 戸 志 智

平成五年十一月十二日金曜日の夜。

それぞれの勤務が終えてから、五名ほど、市ヶ谷駅前「加茂」に集まって親交を深める。人数は五人と少なかったが、大いに飲んで、食べてかつ話して楽しい一時を過ごした。

また十二月十四日の忘年会は、青山のダイヤモンドホールで開催。今度は開催場所がよかったのか、前回の二倍の十名も集まった。来年にむかって大いに氣勢をあげた。回を重ねる度に人数が増える。来年を楽しみだ。

同期会・同期会・同期会

在京同窓生の皆さん!

明けましておめでとうございます

昭和32年卒生は今年もやります

皆さんも元気で頑張りましょう

- | | | | | | | | | | | | |
|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 阿石 | 部川 | 功 | 二 | 小 | 峰 | 勝 | 見 | 長 | 沼 | 三 | 郎 |
| 犬 | 川 | 靖 | 繁 | 佐 | 々 | 勝 | 也 | 沼 | 倉 | 和 | 雄 |
| 加 | 飼 | 謙 | 光 | 々 | 々 | 悟 | 朗 | 野 | 田 | 利 | 美 |
| 川 | 藤 | 秀 | 助 | 々 | 々 | 公 | 哉 | 松 | 野 | 良 | 健 |
| 木 | 口 | 彦 | 勝 | 高 | 梨 | 利 | 通 | 三 | 神 | 忠 | 雄 |
| 草 | 戸 | 美 | 彦 | 高 | 橋 | 清 | 七 | 水 | 上 | 光 | 彦 |
| | 刈 | 次 | 美 | 竹 | 谷 | 靖 | 郎 | 渡 | 辺 | | 男 |

日曜大工園芸用品卸

貸ビル、貸マンション業

(株) 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
小売部 (エコノミープラザ・ダックス)
電話 (3732) 7700
電話 (3739) 2468
FAX (3739) 7234
不動産部 貸ビル・貸マンション

東西線蒲安駅、ディズニーランドのそばにワンルームの空室あり。同窓生には格安で対応します。

謹んで新年の

お慶びを申し上げます

同窓会運営委員の皆様、いつも御苦勞様でございます。いつもありがとうございます。また会員の皆様には良きお年をお迎え下さい。

昭53 浅野勝弘

同窓会は若い方々の参加に力を入れています。ぜひ中学校の後輩に参加を呼びかけて同窓会をますます発展させましょう。

強化委員長 昭34 宍戸志智

在京、在郷の学兄各位の御健勝を祈ります。古里を出て既に半世紀、感入の昨今ですが只今のところ息災です。

昭8 及川八郎

昨年は体調がすぐれず久しぶりの同級会も欠席しました。今年は充分健康に注意して良い年になりたいと思っています。

昭8 大場正治

十二月十四日、青山ダイヤモンドホールに於いて、吉城さんの肝入りで開かれる三十四年同期会に参加します。

宮野(武田)貞司

大不況の今こそ、足腰の頑健こそが無二の宝とされている。

昭9 伊藤守治

新しい目標に向けて、決意も新たに初春を迎えさせて頂きました。充実した年でありたいと思っています。

昭36 千葉昇

今年は、日本国にとって極めて大事な年になります。国政の一翼を担う身の責任の重さをひしひしと感じております。

昭16 伊藤宗一郎

新年おめでとうございます。暗いことの多かった年も新たなまり、今年は明るく、健やかで不況の波を乗り切りませう。

昭12 佐藤恂一

不景気などブツ飛ばすためにも、新年会に出席して、大いに盛りあがろう。

昭31 尾崎章

落葉を掃き冬到来の感を深くしています。そして孫達の冬休みの訪問をたのしみしている昨今です。

昭9 多藤省徳

皆様、お変わりございませんか。今年こそは良い年でありませう様に祈りたいものです。飲み過ぎ、食べ過ぎに注意して正月を過ごして下さい。

昭44 角田耕一

我家の愛犬ビーグルは今年四才となります。飼主に似て可愛らしく、利口でおまけに肥満と来ております。

高校四回 春田紘輔

昨年は冷夏の為田舎からの便りは暗いものばかり。今年は夏暑く冬寒い良き年でありますよう心から祈っております。

昭15 小山豊

大不況、米不作、入院など昨年はよい年ではなかった。今年は心豊かな悠々元年にしたいと思っています。

昭17 高橋淳夫

謹賀新年
同窓の皆様の御多幸を御祈念申し上げます。

昭26 佐藤芳夫(中新田出身)

今年も、同級生の寿司店で、とびきり美味しいししを格安で食べたい。同窓会の皆さんぜひお誘いください。

昭41 小杉誠輝

謹賀新年。在京同窓生の皆様今年も大いに張切って頑張りましょう。二十六年卒の方、四月の同級会に奮って御参加の程お待ちしております。

昭26 遠藤惇

平成の六世、成歳は如何な事か！飯は食えるのか！株式は上がるのか！動脈硬化を予防して、心臓・血管の健康を守るのか！

昭33 田口正一

七十年会の皆さん。今年の8月14日に、古川市内のホテルで、卒業後初めての同級会を開く予定です。スケジュール調整よろしく。

昭45 畠山英洋

すわ恐慌か！と身振いさせられる株の再下落、不況の大合唱、今年はどうなる事やら。マイペースで優良マンション供給を続けるのみ。昭47小嶋進

昭47 小嶋進

明けまして
おめでとうございます
在京古高「三一会」有志

俊寛勝郎夫雄剛男	正木陸和法嘉	熊佐原木沢子	谷々藤鈴木益松	男夫一正良章	平勝六隆一信司	野川堂石内村崎平	浅野石堂大奥尾片生
----------	--------	--------	---------	--------	---------	----------	-----------

昭和31年卒

1996年、卒業40周年記念同期会開催を期待します
今年の同期会は2月5日(土)です。お忘れなく！

森谷重機株式会社

会長 森谷脩一 (昭和20年卒)

336 浦和市大間木二二九九五
電話〇四八(八七四)二六二〇

第1回宮城県高文連大崎地区高等学校総合文化祭の概要

1. 目的 大崎地区高等学校の文化活動を充実させる。大崎地区文化活動の参加および貢献をする。

2. 主催 宮城県高文連大崎支部
共催 小牛田町教育委員会

3. テーマ 『初体験、青春の瞬間(とき)』

4. 参加校と参加部門

古川	川女	(音楽、美術、写真)
古川	工女	(音楽、美術、写真、書道、家庭)
古川	谷農	(音楽、美術、書道)
小田	牛田	(音楽、美術、書道)
小田	松尾	(音楽、美術、写真、書道、家庭)
鹿島	山商	(美術、写真、科学)
南郷	山農	(音楽、美術)
岩出	美農	(音楽、美術)
加美	新田	(音楽、美術)
中崎	中央	(音楽、美術、写真、家庭)
大小	牛田	(美術)

以上、全14校

※音楽部門…吹奏楽・合唱

「大崎地区総合文化祭」に参加して

生徒会長 伊藤 孝行

秋は文化の秋とも言われますが、今年初めて大崎地区の高等学校が中心となり「大崎地区総合文化祭」というものが、先般11月12日～14日にかけて小牛田町文化会館と公民館で行われました。

私たち古川高等学校生徒会執行部は、生徒会活動の一環として、この文化祭に参加しました。

この文化祭は、展示部門と発表部門に分かれており、展示部門は公民館一階の会議室を含む三部屋で行われましたが、なにごん最初ということで展示数が少なく、このような部屋割で展示することになりました。しかし、実際なかに入って見学してみますと、小さな部屋に書道、美術、写真、陶芸、手芸と多

種多様の作品が並べられており、見る人の心に「感動」という名の種を植えていくようでした。古高からは三年四組の後藤匡人君が、全国総合文化祭に出品した作品「薔薇」の写真を出品しました。

一方、発表部門は、文化会館ホールで行われました。こちらは各々の学校の吹奏楽、合唱、ピアノ独奏などがあり、古高合唱部の「イエスタディ・ワンスモア」と、同じく浦谷高校吹奏楽部の「オーメンズ・オブ・ラブ」は「最高」という二文字で表わしても足りないくらいでした。そして、古川女子高校の「バラードピアノ独奏第一番」は恐ろしい程のテクニックと実力で、聴衆全員の感動を誘いました。

生徒会活動としては、このような活動をしているわけですが、百周年まであと三年。みんなで協力し合い一生懸命張り、古高発展のために尽くしていきたいと思えます。

母・校・は・い・ま

連載 同窓会支部めぐり(6)

吹奏学部OB会

昭和51年卒 文責 庄司 誠

わが古川高等学校の吹奏学部は、昭和36年に創部され、今日まで全日本吹奏楽コンクール東北大会における優勝や金賞受賞などの輝かしい成績を収めております。

その陰には、現役学生諸君のたゆまぬ努力と、庄司先生、友川先生、大橋先生の熱意あふれる指導の賜物であることはいうまでもなく、一つひとつの楽器の技術的指導に献身的貢献してきた卒業生、OBの存在を抜きに語ることは出来ません。

わが部OBの中には、在学中の修練を基礎に、音楽大学に進学し、音楽を専門に勉強しているもの(現在、プロのオーケストラプレイヤーとして活躍しているOBも多い。)や各大学のオーケストラや吹奏楽団に所属し、音楽活動を続けている者などが多数おり、これらのOBが、休日や放課後などに来校し、現役学生を指導する。その指導を受けた学生が卒業後、今度はOBとして後輩を指導する。このような繰り返しのなかで、徐々に技術的向上が図られてきたわけです。

そして、OB有志が発起人となってOBと現役学生が共に舞台上がり、合同で演奏する「OB演奏会」が企画され、昭和44年に第一回、昭和57年に第二回、そして56年の第三回から昨年五月の第十五回まで小牛田文化会館において連続開催され、回数を重ねております。

これは、他校のOB会には稀な特筆すべき活動で、これも、現役学生とOBと指導の先生とが三位一体となって技術向上を図っている賜物であり、わ

れわれの誇りでもあります。

また、演奏会の収益金は、吹奏学部にも器補充のための資金として毎年援助しており、「OB演奏会」は、現役側からは技術的経済的な援助。OB側ではOB間の連帯・親睦を図るという両面の意味を持ち、わが吹奏学部の正に「両輪の輪」というべき活動となっております。

われわれOB会は、昭和37年卒業の鈴木勝治氏を会長に、現在会員数名を数える大所帯となっております。



昨年の総会にかけつけてくれたブラバンOB諸氏

間の活動としては、「OB演奏会」が最大のイベントです。

われわれ古高吹奏学部OB会としては、これからも古川高等学校吹奏学部の、ひいては、母校古高ますますの発展のために頑張っていきたいと考えております。

在京古高同窓会の皆さんも、機会がありましたら「OB演奏会」にぜひおいでいただき、現役諸君とOB諸氏を励まして下さるようお願いいたします。

税理士 青沼康男

不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805

TEL 03-3452-2004

FAX 03-5476-8006



三峯工業株式会社

(S・31卒)

代表取締役 片平 司朗

東京都江戸川区北小岩6-10-1

TEL. 03(3672)1146(代)

FAX. 03(3672)1147



技術と品質で
21世紀に飛翔
する

(明石海峡大橋
タワーの架設状況)

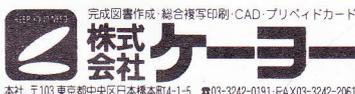


株式会社 宮地鐵工所
代表取締役社長 遠山 仁一 (S・25卒)
東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

ケーヨーは情報化時代の未来を拓く
あなたのパートナーです

●営業品目

完成図書の作成 文字情報入出力
コピーサービス テレホンカード
総合印刷製本 CAD設計製図



完成図書作成・総合複写印刷・CAD・プリペイドカード
本社 〒103 東京都中央区日本橋本町4-1-5 ☎03-3242-0191 FAX03-3242-2061

取締役社長 早坂清吉 (昭・29年卒)



新年明けましておめでとうございます

宮城県の田尻工場でトリマー等電子部品を増産中です
古川方面に御出掛けの際には是非御立ち寄り下さい

田尻工場勤務

青木 康夫 (昭和50年卒)
後藤 純一 (昭和53年卒)



本社 埼玉県入間市新久下新田110-1

名誉会長 佐々木 喬 (昭和12年卒)
経理部長 菊池 詳 (昭和52年卒)

田尻工場 宮城県遠田郡田尻町沼部字新堀81-1

☎0229 (39) 0245 (代表)



活力と魅力にあふれる
クリエイティブ カンパニーをめざす



社長 三浦澄能
(昭和24年卒)

東京都港区芝2丁目2-17 ☎(03)3454-7311(代)
大阪市西区阿波座2丁目1-4 ☎(06)537-3400(代)

コンピューター応用機器開発・設計



代表取締役 伊澤正雄

杉並区阿佐谷南1-14-2
TEL 03(5378)7000 FAX 03(5378)7004



ステージ多摩川

(平成6年5月完成予定・全34戸公庫融資付)



社団法人住宅産業開発協会会員

〒146 東京都大田区東矢口3-2-1
TEL 03(3738)5111 FAX 03(3739)3110

古高47年卒

小嶋進